



病害虫発生予察情報予報第 10 号 (1 月の予報)

佐賀県農業技術防除センター

I. 予報の概要および各作物の特記事項

作物名	病害虫名 ^{注1)}		1 月の予想発生量 ^{注2)}		病害虫防除のてびきの記載頁 ^{注3)}	予報対象の病害虫 (抜粋)
			平年比	前年比		
タマネギ	べと病	早生マルチ	やや多	やや多	260~263	
		中晩生	やや多	やや多		
<p>1. べと病、細菌性病害 (腐敗病等) 罹病株の発生を認めた場合は、直ちに抜き取って圃場外へ持ち出して処分する (令和元年11月18日付け病害虫対策資料第12号参照)。</p>						
施設果菜類	<p>向こう 1 か月は気温が高く、降水量も多いと予想されており、施設果菜類では、特に病害が発生しやすい条件となるため、以下の対策等に留意し、防除の徹底を図る。</p> <p>1. 病害全般 (灰色かび病、菌核病、すすかび病、葉かび病、べと病、うどんこ病、疫病、褐斑病) こまめな換気とともに、循環扇や加温機を活用し、施設内の結露を防ぐ。特に、夜間の気温が高いと予想される際には、加温機の送風機能や循環扇を利用し夜間送風を行う。また、発病部位の早期除去、予防的な薬剤防除を組み合わせる。</p>					
イチゴ (本圃)	ハダニ類		多	多	209~210	 ハダニ類
	うどんこ病		並	やや多	199~201	
	灰色かび病		やや多	並	202~203	
	アブラムシ類		並	並	214~215	
<p>1. ハダニ類 多発生圃場が散見される。発生初期からの防除を徹底する。薬剤防除の際は、5~7 日間隔で系統が異なる薬剤を組み合わせる。また、天敵を放飼した圃場であっても、ハダニ類の増加を認めた場合は殺ダニ剤による防除を行う。(令和元年 11 月 28 日付け病害虫発生予察注意報第 3 号参照)。</p> <p>2. コナジラミ類 多発生圃場が認められる。発生圃場では、施設内の密度を下げるため、幼虫が寄生している下葉を整理し圃場外に持ち出し処分するとともに、ミツバチへの影響の小さい薬剤を選定し防除を行う。</p>						
キュウリ	べと病		多	やや多	179~180	 キュウリ 黄化えそ病
	うどんこ病		やや少	少	177~179	
	褐斑病		やや多	並	182~183	
	アザミウマ類		並	やや少	191~192	
	コナジラミ類		多	多	190~191	
<p>1. ミナミキイロアザミウマ : 黄化えそ病、タバココナジラミ : 退緑黄化病 媒介虫の薬剤防除を徹底するとともに、ウイルス病の罹病株を認めた場合は、早急に除去し処分する。</p>						

作物名	病虫害名 ^{注1)}	1月の予想発生量 ^{注2)}		病虫害防除のてびきの記載頁 ^{注3)}	予報対象の病虫害 (抜粋)
		平年比	前年比		
トマト	葉かび病	並	並	226~227	 トマト 灰色かび病
	灰色かび病	やや多	やや多	221~222	
	コナジラミ類	並	並	152~154 229~231	
	1. タバココナジラミ：黄化葉巻病 ウイルス病の罹病株を認めた場合は、早急に除去処分するとともに、タバココナジラミの防除を徹底する。				
ナス	すすかび病	並	やや多	235~236	 菌核病
	灰色かび病	並	並	234~235	
	菌核病	やや多	並	238	
	アザミウマ類	少	少	155~160 242~243	
	コナジラミ類	並	やや多	152~154 243~244	
1. 茎腐細菌病・褐斑細菌病 こまめに換気を行うとともに、早朝加温や循環扇の稼働により、湿度低下に努める。なお、発病株を認めた場合は発病部位を早急に取り除く。					
アスパラガス	1. 茎枯病、褐斑病、斑点病、アザミウマ類、ハダニ類 これら病虫害は発病茎葉、刈株等で残存するため、茎葉刈取後の残さは圃場外へ持ち出し適切に処分する。また、灌水チューブに付着した泥、残さをほうき等で除去するとともに、圃場全面をバーナーで丁寧に焼却する。				
キク	白さび病	やや多	やや多	383~384	 白さび病
	アザミウマ類	並	少	388~389	
	アブラムシ類	並	並	390~391	
	ハダニ類	やや多	並	389~390	
	ハモグリバエ類	並	並	392~393	
	向こう1か月は気温が高く降水量も多いと予想されており、キクでは特に病害が発生しやすい条件となる。一部圃場では既に白さび病やべと病の発生を確認しており、今後の多発を防ぐため、換気を行うなど施設内の湿度低下を図るとともに、以下の防除の徹底を図る。				
1. 白さび病 発病後の防除は効果が劣るため、発病前からの定期的な薬剤散布を徹底する。					
2. べと病 多発すると防除が困難であるため、発病を確認したら発病葉は早めに除去し圃場外へ持ち出し処分するとともに、薬剤は葉裏や下位葉にもかかるように十分量を丁寧に散布する。					

注1) 病虫害名に網掛けをしたものについては、予報の根拠とした内容を記載しています。

注2) 予想発生量については、平年および前年との比較により記載しているため、実際の発生量とは相違を生じる場合があります。例えば、例年の発生量が少ない病虫害について「平年および前年より多い」と予想した場合であっても、実際の発生量は多くない場合があります。

注3) 防除対策については「[佐賀県病虫害防除のてびき](#)」も参照してください。

II. 予報の内容・根拠等について

予報内容（来月の予想発生量）

- 平年（過去10年間）及び前年と比較し「少、やや少、並、やや多、多」の5段階で示しています。
なお、少発生が予想される病害虫等については、予報の概要のみの記載となる場合があります。

予報内容の根拠

- 農業技術防除センターが実施する県内各地での調査、防除員の調査、予察灯・トラップでの誘殺状況調査等に基づく発生現況、気象予報からみた病害虫の発生条件等を基に、関係者による発生予察会議で決定します。
○ 発生現況および気象条件が来月の病害虫の発生に及ぼす影響については、(－)：少発生、(－～±)：やや少発生、(±)：並発生、(±～＋)：やや多発生、(＋)：多発生として示しています。

防除上注意すべき事項

- 各病害虫を防除する上で特に注意すべき事項等を記載しています。なお、全般的な防除対策については「県防除のてびき」をご参照ください（1ページの予報の概要にリンク有り）。

写真

- 1～2ページ目：予報で対象とした病害虫を抜粋して掲載しています。
4ページ目以降：定期調査時の各作物の生育状況を掲載しています。

1月の気象条件

- 病害虫の発生に関与する1月の気象条件については、福岡管区気象台発表の1ヶ月予報（令和元年12月19日）を基に、「気温：平年より高い」、「降水量：平年より多い」と判断しています。

気象予報による要素別確率(%)及び病害虫の発生に関与する気象条件

要素	1ヶ月予報における1月の気象予報（確率予報%）			病害虫の発生に関与する気象条件（平年比）
	低い(少ない)	平年並 (佐賀市の平年値)	高い(多い)	
気温	10	20 (5.4℃)	70	高
降水量	20	30 (56.7 mm)	50	多

Ⅲ. 1月の予報

タマネギ

定期調査 20 圃場
調査日：12月18～20日



定期調査の圃場の様子

1. べと病

1) 予報の内容

【早生マルチ】発生量：平年よりやや多い（前年よりやや多い）
【中 晩 生】発生量：平年よりやや多い（前年よりやや多い）

（1月に発病することはまれであるが、本圃での感染が進行する可能性がある）

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

①定期調査（図1、図2）

【早生マルチ】 発生株率：0%（平年0%、前年0%）
平年比：並（±） 前年比：並（±）
【中 晩 生】 発生株率：0%（平年0%、前年0%）
平年比：並（±） 前年比：並（±）

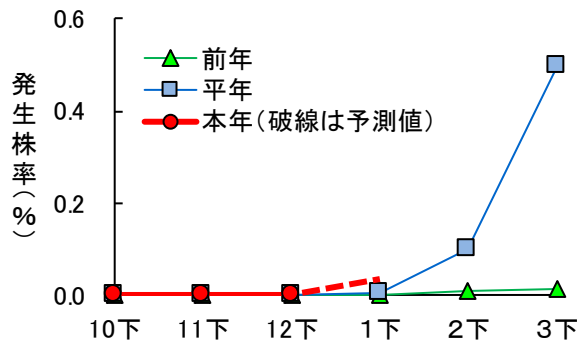


図1 早生マルチタマネギでのべと病の発生推移

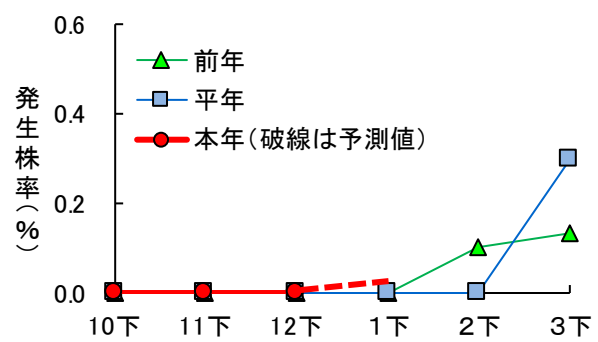


図2 中晩生タマネギでのべと病の発生推移

(2) 圃場の菌密度

近年の発生は多いため、圃場の菌密度は高いと推察される。（±～+）

(3) 1月の気象条件

気温が平年より高く、降水量は平年より多く、多発生の条件。（+）

3) 防除上注意すべき事項

(1) 特記事項を参照。



定期調査圃場の様子

イチゴ（本圃）

定期調査 10 圃場、防除員 4 圃場
調査日：12月16～19日

1. ハダニ類

1) 予報の内容

発生量：平年より多い（前年より多い）

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

①定期調査（図1 参照）

発生株率：22.9%（平年7.6%、前年10.6%）
平年比：多（+） 前年比：多（+）

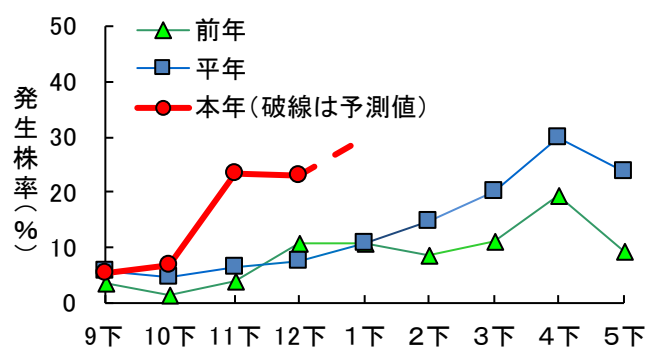


図1 ハダニ類のイチゴでの発生推移

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 薬剤防除の際は、下葉や葉裏まで薬液が付着するように十分量を丁寧に散布する。
- (2) その他については、特記事項を参照。

2. うどんこ病

1) 予報の内容

発生量：平年並（前年よりやや多い）

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

① 定期調査（図1参照）

発生株率：0.6%（平年7.6%、前年0.5%）

平年比：やや少（一～±） 前年比：並（±）

(2) 1月の気象予報

気温が高く、降水量も多く、多発生の条件（+）

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 約10～14日間隔の薬剤防除を徹底する。「さがほのか」では、薬剤防除と硫黄粒剤のくん煙処理を組み合わせる防除を行う。
- (2) その他については、特記事項（施設果菜類の項）を参照する。

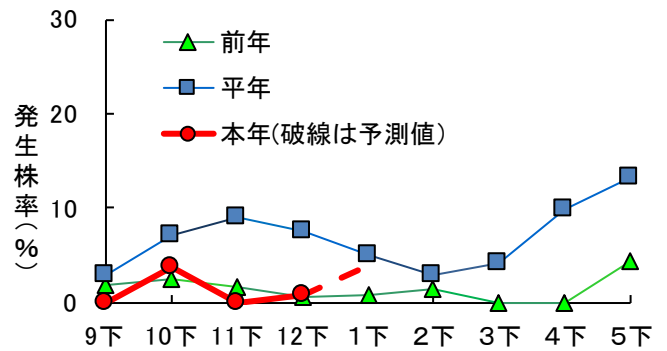


図1 イチゴうどんこ病の発生推移

3. 灰色かび病

1) 予報の内容

発生量：平年よりやや多い（前年並）

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

① 定期調査（図1参照）

発生株率：0%（平年0.1%、前年0.4%）

平年比：並（±） 前年比：少（一）

(2) 1月の気象予報

気温が高く、降水量も多く、多発生の条件（+）

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 「いちごさん」では受粉後の花卉が外れにくいいため、果実での被害が発生しやすい。ブローア等を用い定期的に花卉を除去する。
- (2) その他については、特記事項（施設果菜類の項）を参照する。

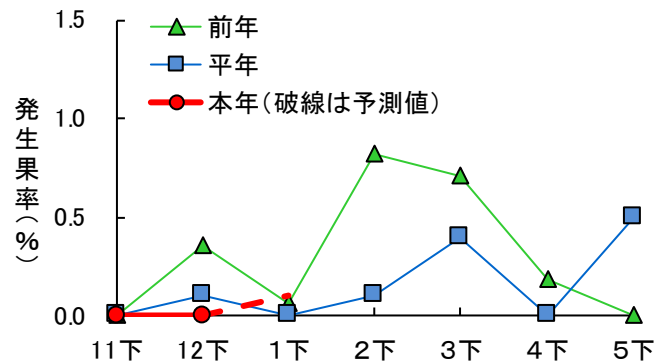


図1 イチゴ灰色かび病の発生推移

4. アブラムシ類

1) 予報の内容

発生量：平年並（前年並）

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

① 定期調査（図1参照）

発生株率：0.9%（平年0.5%、前年3.3%）

平年比：並（±） 前年比：少（一）

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 薬剤防除の際は、ミツバチへ影響の小さい薬剤を選定する（県病害虫防除のてびき P531～535）。

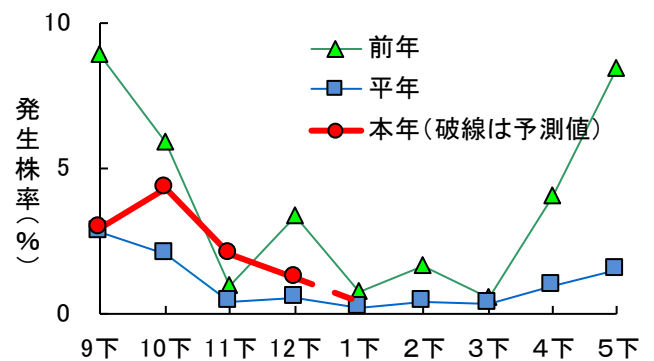


図1 アブラムシ類のイチゴでの発生推移

キュウリ（抑制）

定期調査5圃場、防除員1圃場
調査日：12月16～19日



定期調査圃場の様子

1. ベと病

- 1) 予報の内容
発生量：平年より多い（前年よりやや多い）
- 2) 予報の根拠
 - (1) 発生の現況
 - ① 定期調査（図1参照）
発生株率：22.5%（平年14.4%、前年21.0%）
平年比：やや多（±～+） 前年比：並（±）
 - ② 1月の気象予報
気温が高く、降水量も多く、多発生の条件（+）
 - (2) 1月の気象予報
気温が高く、降水量も多く、多発生の条件（+）
- 3) 防除上注意すべき事項
 - (1) 特記事項（施設果菜類の項）を参照する。

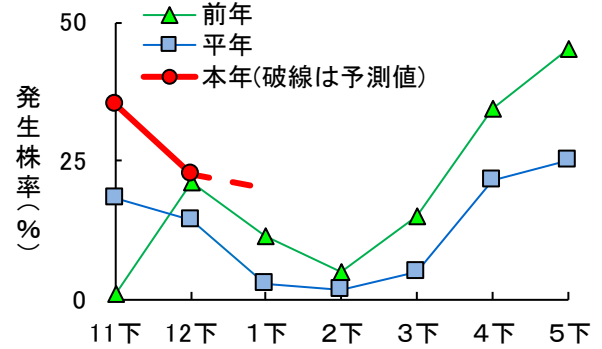


図1 キュウリベと病の発生推移

2. 褐斑病

- 1) 予報の内容
発生量：平年よりやや多い（前年並）
- 2) 予報の根拠
 - (1) 発生の現況
 - ① 定期調査（図1参照）
発生株率：6.7%（平年13.5%、前年0%）
平年比：並（±） 前年比：やや多（±～+）
 - ② 1月の気象予報
気温が高く、降水量も多く、多発生の条件（+）
 - (2) 1月の気象予報
気温が高く、降水量も多く、多発生の条件（+）
- 3) 防除上注意すべき事項
 - (1) 特記事項（施設果菜類の項）を参照する。

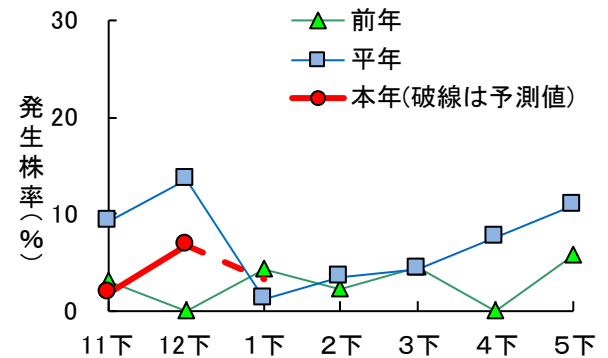


図1 キュウリ褐斑病の発生推移

3. アザミウマ類

- 1) 予報の内容
発生量：平年並（前年よりやや少ない）
- 2) 予報の根拠
 - (1) 発生の現況
 - ① 定期調査（図1参照）
発生株率：3.3%（平年4.4%、前年1.0%）
平年比：並（±） 前年比：やや多（±～+）
- 3) 防除上注意すべき事項
 - (1) 特記事項を参照。

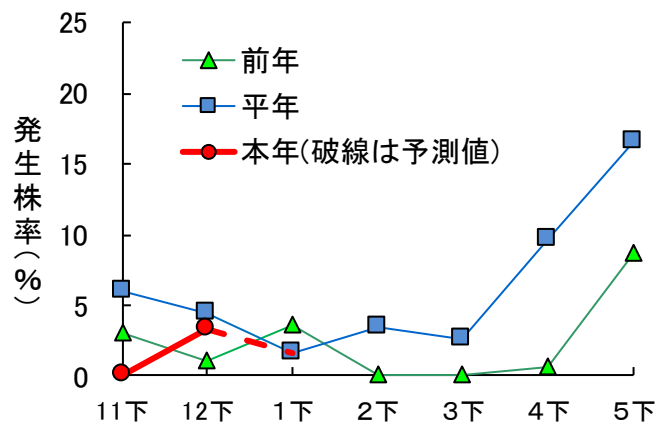


図1 アザミウマ類のキュウリでの発生推移

4. コナジラミ類

1) 予報の内容

発生量：平年より多い（前年より多い）

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

①定期調査（図1参照）

発生株率：15.0%（平年3.7%、前年9.0%）

平年比：多<+> 前年比：多<+>

3) 防除上注意すべき事項

(1) 特記事項を参照。

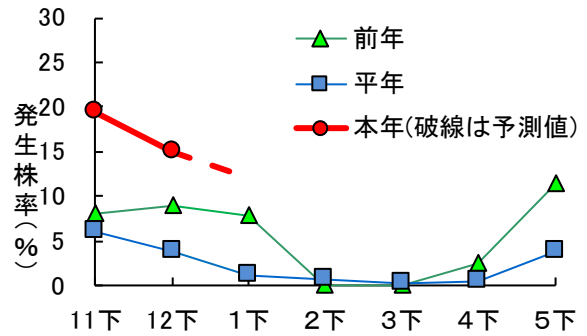


図1 コナジラミ類のキュウリでの発生推移



定期調査圃場の様子

トマト

定期調査：6圃場、防除員4圃場

調査日：12月17～19日

1. 葉かび病

1) 予報の内容

発生量：平年並（前年並）

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

①定期調査（図1参照）

発生株率：0%（平年3.0%、前年2.9%）

平年比：やや少<-~±> 前年比：やや少<-~±>

(2) 1月の気象予報

気温が高く、降水量が多く、多発生の条件<+>

3) 防除上注意すべき事項

(1) 特記事項（施設果菜類の項）参照

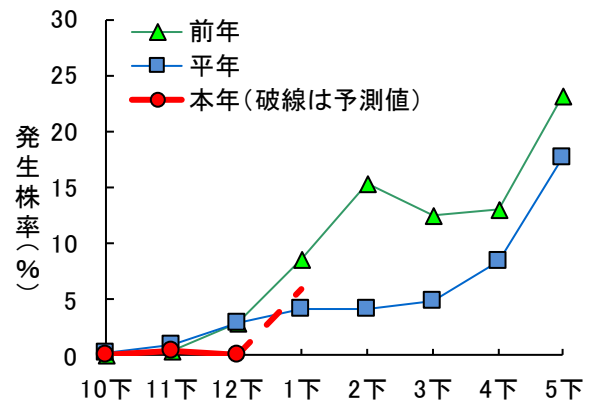


図1 トマト葉かび病の発生推移

2. 灰色かび病

1) 予報の内容

発生量：平年よりやや多い（前年よりやや多い）

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

①定期調査（図1参照）

発生株率：1.0%（平年0.6%、前年0.7%）

平年比：並<±> 前年比：並<±>

(2) 1月の気象予報

気温が高く、降水量が多く、多発生の条件<+>

3) 防除上注意すべき事項

(1) 特記事項（施設果菜類の項）参照

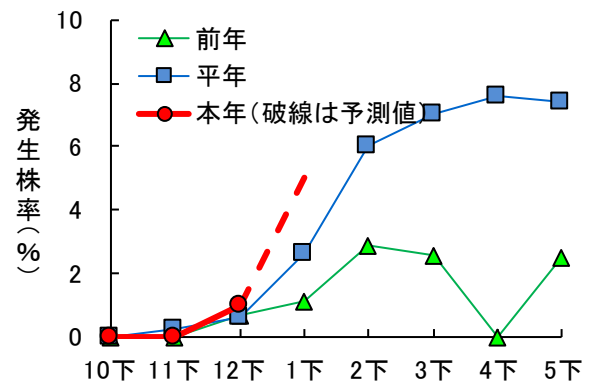


図1 トマト灰色かび病の発生推移

3. コナジラミ類

- 1) 予報の内容
発生量：平年並（前年並）
- 2) 予報の根拠
(1) 発生の現況
①定期調査（図1参照）
発生株率：3.5%（平年3.7%、前年0.4%）
平年比：並（±） 前年比：やや多（±～+）
- 3) 防除上注意すべき事項
(1) 特記事項を参照。

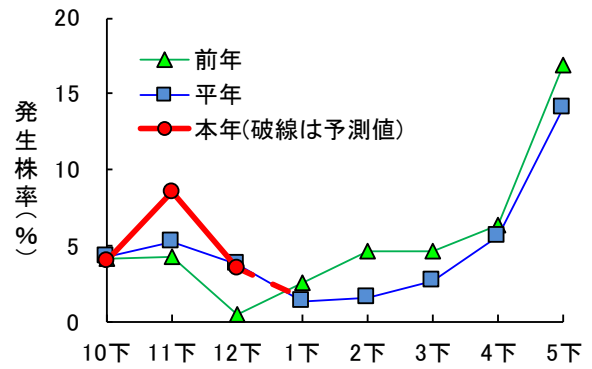


図1 コナジラミ類のトマトでの発生推移



定期調査圃場の様子

ナス（促成）

定期調査7圃場、防除員4圃場
調査日：12月16～17日

1. すずかび病

- 1) 予報の内容
発生量：平年並（前年よりやや多い）
- 2) 予報の根拠
(1) 発生の現況
①定期調査（図1参照）
発生株率：0%（平年3.7%、前年0%）
平年比：やや少（-～±） 前年比：並（±）
- (2) 1月の気象予報
気温が高く、降水量も多く、多発生の条件（+）

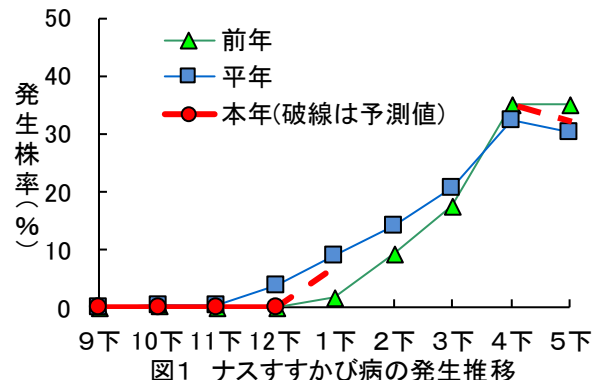


図1 ナスすずかび病の発生推移

- 3) 防除上注意すべき事項
(1) 初発生を確認後、本病の発生を低く抑えるために、直ちにダコニール1000（TPN水和剤）を散布し、約1週間後にベルコートフロアブル（イミノクタジナルベシル酸塩水和剤）を散布する。これを約1ヶ月間隔で実施する。

2. 菌核病

- 1) 予報の内容
発生量：平年よりやや多い（前年並）
- 2) 予報の根拠
(1) 発生の現況
①定期調査（図1参照）
発生株率：0.2%（平年0.1%、前年0.8%）
平年比：並（±） 前年比：少（-）
- (2) 1月の気象予報
気温が高く、降水量も多く、多発生の条件（+）
- 3) 防除上注意すべき事項
(1) 特記事項（施設果菜類の項）を参照する。

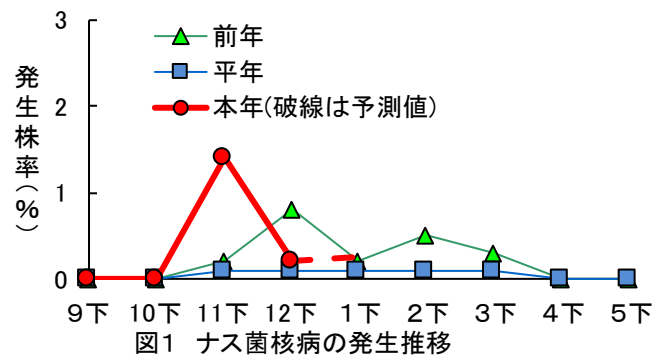


図1 ナス菌核病の発生推移

3. アザミウマ類

- 1) 予報の内容
発生量：平年より少ない（前年より少ない）
- 2) 予報の根拠
(1) 発生の現況
①定期調査（図1参照）
発生株率：2.7%（平年19.2%、前年14.1%）
平年比：少く（-） 前年比：やや少く（-〜±）
- 3) 防除上注意すべき事項
(1) 葉裏や下位葉にも薬液が十分かかるよう丁寧に散布する。
(2) 薬剤感受性の低下を防ぐため、同一系統の薬剤を連用しない。

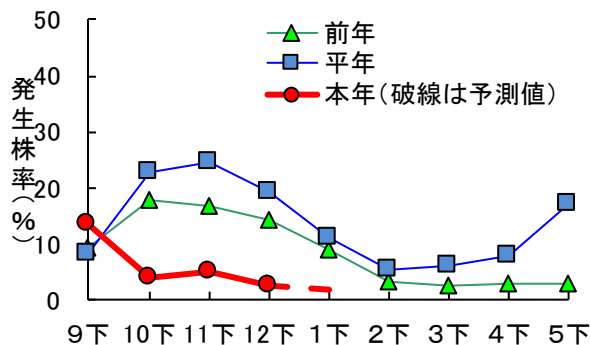


図1 アザミウマ類のナスでの発生推移

4. コナジラミ類

- 1) 予報の内容
発生量：平年並（前年よりやや多い）
- 2) 予報の根拠
(1) 発生の現況
①定期調査（図1参照）
発生株率：23.2%（平年21.0%、前年15.5%）
平年比：並く（±） 前年比：やや多く（±〜+）
- 3) 防除上注意すべき事項
(1) アザミウマ類の項と同じ。

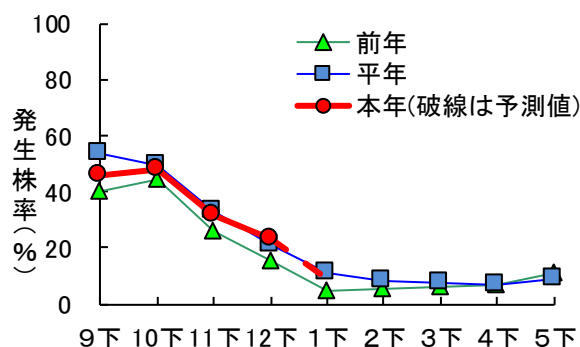


図1 コナジラミ類のナスでの発生推移

キク

定期調査：8圃場
調査日：12月17～19日



定期調査圃場の様子

1. 白さび病

- 1) 予報の内容
発生量：平年よりやや多い（前年よりやや多い）
- 2) 予報の根拠
(1) 発生の現況
①定期調査（図1参照）
発生株率2.3%（平年5.6%、前年1.3%）
平年比：並く（±） 前年比：並く（±）
(2) 1月の気象予報
気温が高く、降水量が多く、多発生の条件（+）
- 3) 防除上注意すべき事項
(1) 葉裏や下位葉にも薬剤が十分かかるよう丁寧に散布する。
(2) 薬剤に対する感受の低下を防止するため、同一系統の薬剤を連用しない。
(3) その他については特記事項参照。

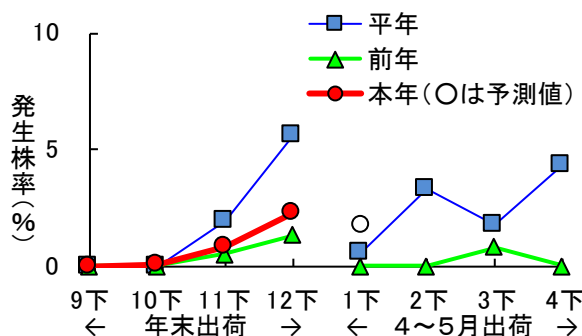


図1 キク白さび病の発生推移

2. ハダニ類

1) 予報の内容

発生量：平年よりやや多い（前年並）

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

①定期調査（図1 参照）

発生株率9.0%（平年5.1%、前年17.3%）

平年比：やや多（±～+） 前年比：少（-）

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 発生株からの採穂は避ける。
- (2) 葉裏や下位葉にも薬剤が十分かかるよう丁寧に散布する。
- (3) 薬剤に対する感受性の低下を防ぐため、同一系統の薬剤を連用しない。

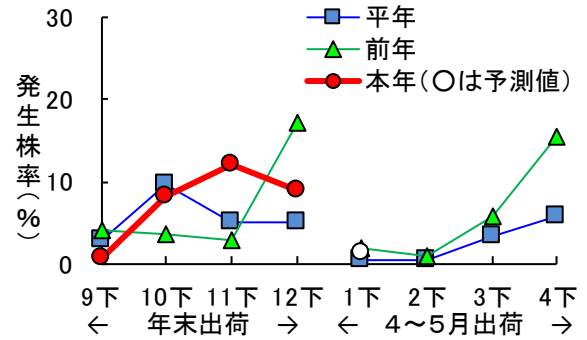


図1 ハダニ類のキクでの発生推移

連絡先：佐賀県農業技術防除センター 病害虫防除部
 〒840 - 2205 佐賀市川副町南里 1088
 TEL (0952) 45 - 8153 FAX (0952) 45 - 5085
 Mail nougyougi.jutsu@pref.saga.lg.jp